

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2020 年 5 月号掲載



日本中央競馬会所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。20年4月にJRA日本中央競馬会入会。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

馬心伝心 —奮闘記partⅡ—

佐々紫苑

Shion Sassa



「左後一白の馬」をご存じですか。

文字通り、4本の肢のうち、左後肢の蹄の周辺だけが白い馬のことです。これは「左後一白の馬には名馬が多い」という競馬界でも馬術界でもよく耳にする迷信のひとつです。競走馬では歴代の三冠馬であるシンボリルドルフやオルフェヴルなどが左後一白。偶然とはいえこの2頭が伝説の名馬であることに間違いはありません。

実は、今までも何度かこのコラムに

登場してきた私の愛馬、QUANDOとWINNIDOUの2頭とも左



QUANDO WINNIDOU

(ともに本人提供)



後一白なのです。QUANDOは私をどんどん上のクラスに連れていってくれた馬であり、WINNIDOUは今までの馬術人生で初めて「一緒に負けの気がしない!」と思わせてくれた、一番気が合った馬です。私にとってこの「左後一白」の2頭の馬との出会いは、迷信を現実にしてくれました。

ライダーの間では他にも、「尻尾の毛に白が交じっている馬は乗り手を助けてくれる」、「栗毛の四白は難しい」、「耳が大きい馬は頭がいい」などがありますが、真偽のほどは分かりません。ちょっとした偶然の重なりの中から生まれる真実が、新しい「伝説の名馬」を誕生させるのかもしれないですね。

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(ただ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

犬や猫の動物病院があるように、馬専門の病院があることをご存じでしょうか? 日本では、乗用馬より圧倒的に競走馬の頭数が多いので、トレセンや牧場などの周りにあります。

先月のレポートにも書きましたが、ドイツは日本の競走馬の約4倍の乗用馬が毎年生産されているほどの馬術大国。馬専門の病院も各地にあります。基本的には獣医師さんが各厩舎へ往診していただくことが多いですが、緊急を要する場合や、精密な検査が必要な場合は、馬運車で馬を病院へ連れていきます。

ドイツの馬専門病院には一頭一頭の診察室が用意され、最先端の機械がそろっています。馬のレントゲンはもちろん、CTやMRIといった人間の医療と遜色ない設備があり、診療結果はすべて電子カルテで管理されています。頼もしい獣医師さんと最先端のウマ医療のおかげで、私の愛馬も健康な状態でトレーニングを続けられています。

私の友人の獣医師が、ドイツで研修医をしながらYouTubeで獣医学的な情報をシェアしているので、気になる方はぜひごらんください! →【YouTubeチャンネル「馬医者Shunの日常」】



往診中の獣医師さんがレントゲンを撮る様子。撮影したレントゲン写真は、その場で確認できます(本人提供)